



自己紹介

運用技術部門・先端運用技術ユニットに所属し、スーパーコンピュータやデータセンター全体の高度運用に関する研究開発を担当。運用データやジョブ情報をリアルタイムに分析・可視化するソフトウェアを開発、利用者と管理者双方の理解向上を目指しています。

入所の経緯

群馬高専で土木を学び、情報技術を活用したインフラ管理を研究していた。高専での庄司部門長の講演をきっかけにR-CCSを知りインターンに参加。実運用のスケールに魅力を感じ、大規模システムを支える仕事を志して入所を決意しました。

高専生から理研職員に

民間でなく理研を選んだ理由

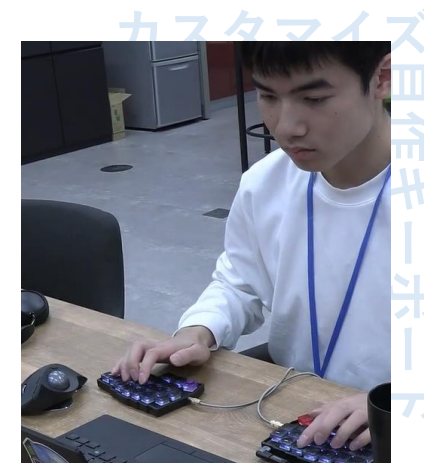
理研のインターンは民間では得難い幅広い挑戦と自由度の高さが魅力です。多分野のベテラン技術者と協力して、若手のうちから日本有数の計算基盤を支えるチームに参加、挑戦できる環境に惹かれて運技を選びました。

インターンについて

インターンでは、自由に課題設定し、富岳上でRustのコードを動かすため試行錯誤を繰り返す中、並列計算機の面白さを実感しました。また、職員との交流や神戸での生活体験を通じて現場の雰囲気や働く環境に強く魅力を感じました。



の大切さを実感しています。インターンに参加する際はぜひ積極的にコミュニケーションをとってほしいです。また、理研では英語を使う機会が多いです。自身は英語を避けてきたタイプだが社会に出た今実感するのは、学校で学ぶどの知識も意外と無駄になりません。勉強だけに集中できる学生時代を大切にしてほしいです。技術が好きな人にとってR-CCSは魅力的な環境なので、ぜひインターンにきて現場を体感してください。



オフの日

オンオフの切り替えを大切に、街歩きやスイーツ、ピラティスでリフレッシュしています。自作キーボードのカスタマイズも趣味の一つで、作業環境を整えるのも楽しみになっています。

高専生へのメッセージ

日々、周囲のエキスパートと積極的に関わりながら新たなアイデアに出会うこともあるため、コミュニケーション